

# 駐日エジプトアラブ共和国大使 ワリード・アブデルナーセル博士

駐日エジプトアラブ共和国大使ワリード・アブデルナーセル博士はエジプト日本の両国間の強い関係を強調し、大使館と在日エジプト人との、つながりについて語っていただきました。更に世界におけるさまざまな出来事に触れながら、エジプトの多様化したイメージと、協力可能なさまざまな分野の紹介をします。

حديث السفير المصري  
دكتور وليد عبد الناصر  
بمناسبة اليوم الوطني والذي  
أجرتة عبير ياسين وترجمه  
لليابانية محمد عشيبية

Q: まずは、ご多忙の中、貴重なお時間をいただき感謝いたします。そして、エジプトナショナルデーの機に、大使閣下並びに在日のエジプト人に心をこめて「おめでとう」のお言葉をお送りしたいと思えます。この機会にぜひ大使から在日エジプト人に対して一言お願いできますでしょうか。

まずは、在日エジプト人に対して「おめでとう」の言葉を送ると同時に、大使館と在日のエジプト人、そしてヤヒヤ・アブシューシャさんが会長を勤める、エジプト日本友好協会の方に非常に強いつながりとコミュニケーションがあることを強調しておきたいです。大使としても、大使官邸において在京の 250 人ものエジプト人のための歓迎会を催したり、大使館の関係者も在日のエジプト人日常生活における問題やトラブルを聞き、対応するようにしています。



小池 百合子 衆議院議員

**Q: エジプトのナショナルデーのセレモニーを行うことで、日本側とのコミュニケーションと関係づくりに効果があると思われませんか？**

エジプトのナショナルデーというセレモニーは、大使館の恒例の最も大きなイベントであり、1200 人もの方が招待され、その内訳、日本人、在京の外国人、そしていうまでもなく在日エジプト人が多く出席するということが、非常に独特な特徴を持っています。日本側の参加者は、日本政府関係者、日本企業代表者、大学関係者、日本とエジプトの両国間の協力を振興する日本中東協力センターのような団体です。

**Q: エジプトのナショナルデーは、エジプトと日本間の関係においてはっきりとした関連性があると思われませんか？**

まずは、エジプトのナショナルデーというのは世界におけるエジプトの役割を紹介するためにある大きなイベントだと思います。特に、日本とエジプトの両国間の関係においては極めて重要な意味を示していると思います。その意味とは、1952 年の革命の直後に両国間において外交関係が始まり、大使館も開館され始めたことで、両国の歴史的なつながりを強調するということです。両国間の関係は非常に深く、多様な面に渡る関係であり、「歴史」の面の関係に「博物館」があり、「現在」における関係が「大学」で現わされ、それから「将来」における関係としては、2010 年 2 月にエジプトのスエズ湾で「風力発電所」が建設されるという例が挙げられます。

**Q: 日本におけるエジプトのメディア振興の年の今年の両国間の最も顕著な活動や予定されるイベントについてご紹介いただけますか？**

メディア振興の年の今年におけるイベントでや今まで出来たのは多くありますが、まだ企画中のイベントも数多くあります。

現時点までに出来た主なイベントとしては、エジプトからの最高レベルの関係者の訪日が挙げられます。例として、エジプト大ムフティー（イスラーム教最高指導者の一人）のアリー・グムア博士の日本外務大臣による招待での訪日の例があります。今回のグムア師の例は、日本において第二次世界大戦後の宗教的人物への日本政府からの正式的招待による訪日として、ダライラマの訪日に次ぎ二回目になるということで、非常に貴重な意味を持っています。グムア師は外務大臣と面会し、環境保護やアフガニスタンの治安対策における協力など、さまざまな課題について話し合いました。会談で取り上げられた課題の一つに、グムア師によるアズハル大学における日本語学科の設立の案で、日本外務大臣はそれに対して、真剣に検討すると述べました。このグムア師の来日の活動として、日本の宗教団

体代表者やその他の日本社会のさまざまな団体、日本シャリア（イスラーム法）研究所日本の各宗教代表者とも面会しました。

**Q: 訪日したエジプトの関係者が大勢いますが、その中での著名なゲストとして最近来日した、エジプトの最大新聞社の理事長を務めているアブデルメヌエム・サイード博士ですが、その訪日をどう評価なさいますか？**

アブデルメヌエム・サイード博士の訪日は非常に貴重な訪問であり、この訪問の目標が二つにまとめられます。一つ目は、日本の新聞社との関係を深めるということで、朝日新聞社の関係者と面会し、両社間の協力体制の作成や人材交流及び研修における協力について話し合うことです。もう一つの目標は、新聞社以外の民間社会の団体とのつながりを強めるということであり、その団体の例に、笹川平和財団が挙げられます。笹川平和財団が創設した中東イスラーム基金の枠の中で両社に間にできる協力やパートナーシップの実現で意見が一致し、それらの協力や将来の企画の実施を目指して 2011 年にカイロで会議を開くことが決定されました。

**Q: 日本とエジプトのメディア進行年の今年を機に、日本へのエジプト関係者の訪問がほかにありますでしょうか？**

その他の訪日の例は、エジプトのアルシュルーク 出版社の社長で、世界出版協会副会長を務めるイブラヒム・アルムアッリム氏の訪日が挙げられ、エジプト日本観光振興の年の 2009 年の東京国際ブックフェアで取り上げられた両国間の翻訳活動の奨励プロジェクトに注目が寄せられました。翻訳プロジェクトを普及させるために、アルムアッリム氏が日本の多数の図書館を歩き回りや出版者とも面会しました。

その他には、エジプト外務省文化・メディア担当外務大臣補佐のニハール・ズィクリー大使も来日し、多くの日本側の関係者と面会しました。また、メディア振興の年を機に、エジプト外務省のスポークスマンを務めるホサーム・ザキー大使とエジプトの情報局局長のイスマイル・カイラト大使も日本へ来日する予定があります。

また、今年も著しい活動が多くあり、6 月 4 日に大使館のメディアオフィスがミスルトラベルというエジプト最大の国立観光会社と共に、在京の外国人記者クラブで、エジプシ

**エジプトと  
日本の関係  
は非常に良  
好で多様な  
面に渡る強  
い関係であ  
る。**

ャンナイトを開催し、120名余りの記者が参加し、エジプトを記者たちやメディア関係者に紹介するための非常に貴重なイベントでした。もう一つの訪日の例は、6月に来日した、カイロ大学政治経済学部教授のムハンマド・アルサイエド・セリーム博士で、この訪問を機に、セリーム先生は創価学会名誉会長の池田大作先生の「対話の文明—平和の希望哲学を語る—」を翻訳することを発表しました。

**Q:日本国内の活動については？**

もちろん大使館からの訪問や講演会日本側の関係者との面会のような動きは、東京都内ばかりではなく、さまざまな地域をカバーするようにしています。その例としては、最近秋田大学への訪問と、カイロ大学への秋田大学学長の訪問が挙げられます。それらの訪問のおかげで、カイロ大学・在カイロのアメリカ大学と、秋田大学との間に2010年9月から実行される多様な分野における交換留学生制度の覚書が署名されました。更に、400人もの学生及び社会人に対する講演が行われ、大学関係者と覚書の実行にまつわる話し合いが行われました。更に秋田県知事とも面会し、エジプトとの友好協会の設立、そして秋田県に東京で行われるエジプト関係の行事に参加してもらうための話し合いがありました。また、観光名所の秋田県男鹿市の日本人の観光客のほかにも、外国からの観光客を引き付けようとしていることがあり、男鹿市長と面会し、エジプトのルクソール、アスワンと岩手市の例のように、男鹿市との活動の拡大について意見交換をしました。

2010年6月19日には、アルアハラーム新聞社からのカマー・ガーバラー氏の参加で、NHKの文化センターにおいてエジプトについてのセレモニーが行われました。

更に1973年の中東戦争の日の今年の10月6日には、大使館の大規模なセレモニーを企画しており、多くの有名な人物が招待される予定です。2011年に関しては、現在は日本側と交渉中ですが、正式的に2011年を両国間の交流の150周年、そして外交関係開始の75周年記念のお祝いの年にしようと考えています。

**Q:両国のメディア振興の年の活動、そして笹川平和財団との面会などで取り上げられたアラブと日本間の報道のあり方に対するエジプト日本メディア振興年の効果について教えてください。**

まずは、このメディア振興年のおかげで、日本社会にエジプトの新しいイメージを届けることができたと考えます。これまでのエジプトに関する日本の報道は、多くの事情の中で、ある程度客観的に行われてきたように思います。特に、2007年から交渉が始まった、エジプト日本科学技術大学と、2008年の両国の科学技術振興年、2009年の観光振興年の連続が、日本の報道にとって、エジプトについての情報であふれたイベントであり、報道するに値するような出来事でした。更に、このような活動は、メディアとのコネクションが常にある日本のJICAなどのような機関と共に行われ、大使館としても東京外の活動があった場合には、それについてのわかりやすく簡潔したプレスリリースを出すようにしていました。

**Q:観光振興年が終わり、メディア振興年を迎えようとする時期になってきたら、今までの努力とその成果をどう評価し、果たしてエジプトをバラエティーのある観光地として日本人に紹介することができたと言えると思われませんか？**

観光産業においては、観光振興の活動をし始めてから効果を期待するのはかなり時間が要するということが知られていますが、観光振興年による成果は数字で裏付けられています。それは、エジプトを訪れる日本の観光客の年齢層とエジプトの観光地で初めて訪れる普通以外の観光地についての統計があります。年齢層では、主に若者層で新婚の観光客が著しく増え、サファリやダイビング観光のような、普通以上の文化的ではない観光地への観光客が5000人も増えたということがわかっています。

**Q:大使が各イベントや活動にご自分でいつも参加なさっていると聞きますが、現在の大使の役割についてどうお考えですか？そして今までの3年間、大使をから見て、今までのご活躍の影響も併せて教えていただけますか？**

物事の変動が常にあるため、外交官の正式な動きと共に社会との直接的な接触も必要なので、外交官の役割も正式の面と民間の面での活躍をの両立させるべきです。そこで、日本社会、日本の友人たちと直接的な関係を作り、直接的な接触が不可欠です。また、個人的にできるし乳との近い関係もあったりし、あるいは、特定の団体があるイベントやある国及びその大使館の活動に対して親近感を持つということもあると思います。たとえてみると、今年6月に行われた笹川平和財団主宰のある集まりに多くの外交官が書け集まっていたが、その没頭にエジプト大使への感謝の言葉が送られ、エジプト大使館を評価すると言うことを受け、国全体を代表する大使館と大使が母国の関心を伝えていることがわかります。

**Q:最後、この場をお借りして、ぜひ、日本・エジプトの関係、そして、在日のエジプト人とのつながりについてのアルマナーラの役割についてご意見をお聞かせいただけますか？**

もちろんアルマナーラには、在日のエジプト人と、日本・エジプトの関係に貢献する非常に欠かせない大きな役割があります。在日のエジプト人に関しては、日本で直面するさまざまな問題を紹介したり、エジプト人同士、そしてエジプト人と日本人とのつながりとコミュニケーションの実現には、アルマナーラが欠かせないと思います。また、アルマナーラを通して、在日のエジプト人がエジプトや大使館の情報やニュースを知ることができるというメリットもあるかと思っています。

一方、あるマナーにも日本語のコーナーもあるため、エジプト人友人がおりエジプトのことが好きな日本人、または、エジプトを訪れたり、エジプトでの滞在経験があったりする日本人に対して重要なエジプトのニュースや情報の伝達が可能であるということもあるマナーの大きな特徴の一つだと思います。